2021年9月8日



重要文化財 《唐獅子図》(右幅部分) 明和元(1764)年頃 紙本墨画 朝田寺蔵

普段講旨

力強い筆墨と極彩色で超現実的な世界を描き出した曽我蕭白(1730-81)のあくの強い画面は、グロテスクでありながらおかしみもたたえ、見る人をひきつけて止みません。本展では、強烈な印象を与える蕭白の醜怪な表現を紹介すると共に、その原点となった桃山時代の絵画、そして江戸時代初期の絵画との関係を掘り下げることで、蕭白がいかにして型を破り、奇矯な画風を打ち立てたのかを明らかにし、また晩年の作品への変化を通して画業の到達点を見定めます。

【開催概要】

会 期 2021年10月8日(金)から11月21日(日)まで

※会期中一部展示替えをします

前期:10月8日(金)から10月31日(日)まで中期:11月2日(火)から11月16日(火)まで後期:11月17日(水)から11月21日(日)まで

会 場 愛知県美術館「愛知芸術文化センター10 階]

開館時間 午前10時から午後6時まで/金曜日は午後8時まで(入館は閉館の30分前まで)

休館 日 毎週月曜日

観 覧 料 「平日限定券」

一般:1,400 (1,300) 円

高校・大学生:1,100(1,000)円

中学生以下無料

[土日祝日券]

一般:1,600 (1,500) 円

高校・大学生:1,300(1,200)円

中学生以下無料

※() 内は前売券及び20名以上の団体料金です。

※上記料金で同時開催のコレクション展もご覧いただけます。

※「身体障害者手帳」「精神障害者保健福祉手帳」「療育手帳」のいずれかをお持ちの方、また、その手帳に「第 1種」または「1級」と記載のある方に付き添われる方は1名まで各料金が半額になります。当日会場で、各種 手帳(ミライロ ID 可)をご提示ください。(付き添いの方はお申し出ください)。

アクセス 地下鉄東山線・名城線「栄」駅/名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、

オアシス 21 連絡通路利用徒歩3分

展覧会特設

ウェブサイト https://static.chunichi.co.jp/chunichi/pages/event/soga_shohaku/

美 術館

ウェブサイト https://www-art.aac.pref.aichi.jp/

主 催 愛知県美術館、中日新聞社、日本経済新聞社、テレビ愛知

後 援 JR 東海

同 時 開 催 愛知県美術館 2021 年度第 2 期コレクション展

【展示内容】

プロローグ 奇想の絵師、蕭白

1970年に辻惟雄『奇想の系譜』が刊行されてから、蕭白は伊藤若冲とともに「奇想」の画家として、広く世間に認知されるようになりました。本展では、蕭白の画業を初期から順に、晩年まで通してご覧いただくことで、「奇想」だけではない蕭白画の面白さを見つけていただけるでしょう。まずは、プロローグとして、現代における蕭白のイメージがどのようなものか、名品とともに振り返ります。





重要文化財

《群仙図屏風》 明和元 (1764) 年 紙本着色 六曲一双 文化庁蔵 ※10月31日までの展示

第一章 水墨の技巧と遊戯

宝暦 8(1758)~13(1763)年頃(29~34歳)第一次伊勢~播州高砂滞在期

過去帳により享保 15 (1730) 年に京の商家に生まれたことがわかる蕭白ですが、絵を描き始めた時期や動機、師などは明らかでなく、現在知られるその画業は突然伊勢から始まります。蕭白が 29 歳の時に揮毫した襖絵が津の西来寺にあったという伝承が、最も早い彼の事跡です。初期に位置づけられるこの伊勢での活動で、蕭白は既に独自の個性が現れた作品を多く描いています。その後、播州にも足を伸ばし、絵馬を手がけるなど幅広く活動していました。本章では、蕭白の画業初期の作品を取り上げ、水墨を自由闊達に用い、豪放でありながら精緻さも備えた蕭白の"技"と、樹木の描写や面貌表現に見える奇怪さ、伝統的な画題の奇抜な描出に現れた蕭白の"戯れ"をご覧いただきます。そして、その特徴的な表現の源泉がどこにあるのか、土台としての室町・桃山時代の絵画や、江戸時代初期の絵画からの摂取を探ります。





《林和靖図屏風》 宝暦 10(1760)年 紙本墨画淡彩 六曲一双 三重県立美術館蔵

第二章 ほとばしる個性、多様化する表現

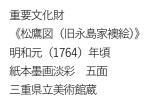
明和元(1764)~3(1766)年頃 35~37歳頃 第二次伊勢滞在期

諸国を遊歴した蕭白は、とりわけ伊勢において精力的に活動し、現在でも多くの作品が伝わっています。 斎宮の旧家に伝来した「旧永島家襖絵群」は、蕭白の二度目の伊勢滞在期に当たる傑作です。繊細な筆致で 描かれた奇怪な面貌と、衣紋表現に粗放でありながら巧みな筆遣いを見せる人物画、画面を飛び出すかのよ うな大樹や荒れ狂う波濤と共に羽の細部まで描き込まれる花鳥画、筆を用いずに指で軽快に描いた牧牛図な ど、多様な表現が一つの作品群として残っているのはとても貴重です。この時期の蕭白は、水墨画だけでな く、強烈な極彩色の着色画も制作しており、技法、技術の進化と共に、画家として充実した時期であったと 言えるでしょう。本章では、自らの画風を確立した蕭白の大画面作品を集め、その技法的な多様性と造形・ 色彩の特質に迫ります。





重要文化財 《唐獅子図》 明和元(1764)年頃 紙本墨画 双福 朝田寺蔵







《楼閣山水図襖》 安永初年 四面 紙本墨画 栗東歴史民俗博物館蔵 ※10月31日までの展示

第三章 絵師としての成功、技術への確信

明和4(1767)~8(1771)年頃 38~42歳 第二次播州高砂滞在期

明和4(1767)年、蕭白は播州高砂に居たことが、曽根天満宮に献納された《牽牛図絵馬》に記されていることから判明しています。二度目の播州滞在は、蕭白の画風が前章で見た「奇想」を連想させるようなものから、精緻な筆致で描く堅実な画風に変化していく過渡期にあたります。また、この地域に蕭白の弟子が多いことから、弟子の育成も始めたことが推察されています。本章では、蕭白の確かな技術に基づいて作られた奇怪な作風が、その技術的円熟を契機に落ち着きを見せ、まとまり始める過程を紹介します。



《松に孔雀図襖》明和4(1767)年頃 紙本墨画 四面 三重県立美術館蔵 ※10月31日までの展示

第四章 晩年、再び京へ

安永元(1772)~天明元(1781)43~52 歳

播州に滞在した後、蕭白は京へ帰りました。晩年の蕭白は、それまでの醜怪な表現で見る者を驚愕させるような作品から、謹直な画風の作品を制作するようになります。山水画においては独自の硬質な表現が生み出されるものの、《雲龍図》(個人蔵)のような最晩年の大画面作品は盛期の奇怪さから遠ざかるように落ち着きを見せます。本章では、晩年に至った蕭白の狂気が収束していく過程に焦点を当て、蕭白最後の画業の到達点をあらためて評価します。





重要文化財 《楼閣山水図屏風》安永年間 紙本着色 六曲一双 近江神宮蔵

曽我蕭白展広報用画像申込書

※ご掲載にあたっての注意事項

- ・ 必ず作品名、制作年、所蔵館を明記ください。
- ・作品の一部をトリミングしての利用も可能です。キャプション内、作品名の後ろに(部分)と表記してください。
- ・ 基本情報の確認のため、校正原稿を事務局宛に FAX またはメールでお送りください。
- ・ 掲載・放送後、掲載誌(紙)やリンク、DVD、CD-ROM 等を事務局宛にお送りください。

※会場撮影に関するお願い

電話:

三脚等を使用する撮影をご希望の方は、事前に広報担当までご相談ください。休館日、または閉館時間内で日程を調整させていただきます。

□ 1 重要文化財 《唐獅子図》(右幅) 明和元(1764)年	E頃 紙本墨画 朝田寺蔵
□ 2 重要文化財 《唐獅子図》(左幅) 明和元(1764)年	E頃 紙本墨画 朝田寺蔵
□ 3 重要文化財 《群仙図屛風》(右隻) 明和元(1764)	年 紙本着色 六曲一双 文化庁蔵 ※10月31日までの展示
□ 4 重要文化財 《群仙図屛風》(左隻) 明和元(1764)	年 紙本着色 六曲一双 文化庁蔵 ※10月31日までの展示
□ 5 《林和靖図屏風》(右隻) 宝暦 10(1760)年 紙本屋	墨画淡彩 · 六曲一双 · 三重県立美術館蔵
□ 6 《林和靖図屏風》(左隻) 宝暦 10(1760)年 紙本屋	墨画淡彩 · 六曲一双 · 三重県立美術館蔵
□ 7 重要文化財 《松鷹図(旧永島家襖絵)》 明和元(17	764)年頃 紙本墨画淡彩 五面 三重県立美術館蔵
□ 8 《楼閣山水図襖》 安永初年 四面 紙本墨画 栗東原	歴史民俗博物館蔵 ※10月31日までの展示
□ 9 《松に孔雀図襖》 明和4年(1767)頃 紙本墨画	四面 三重県立美術館蔵 ※10月31日までの展示
□ 10 重要文化財 《楼閣山水図屛風》(右隻) 安永年間((1772~1781) 紙本着色 六曲一双 近江神宮蔵
□ 11 重要文化財 《楼閣山水図屛風》(左隻) 安永年間((1772~1781) 紙本着色 六曲一双 近江神宮蔵
媒体名:	問い合わせ先 / 校正原稿等の送付先
ジャンル: 新聞/雑誌/テレビ/WEB/その他()	始小茶点只由仁系只人
掲載・放送予定:	曽我蕭白展実行委員会 展覧会内容に関すること:展覧会担当 由良、石崎
	広報掲載に関すること : 広報担当 田村
貴社名:	
ご担当者名:	〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2
E-mail:	TEL: 052-971-5511 (代)
所在地: 〒	FAX: 052-971-5604 E-mail: art11@aac.pref.aichi.jp
	131-